

公益事業の効果報告書

実施者 (団体名)	第15回国際地盤工学会アジア地域会議実行委員会 実行委員長 大谷 順
実施事業名	第15回国際地盤工学会アジア地域会議
実施目的	1) 地盤工学における最先端研究及び実務についての討議 (我が国の技術を世界へアピール) 2) 我が国とアジア諸国との関係を深め、アジアを含めた地盤工学における長期的人材育成 3) 我が国の技術者にとって貴重な情報を提供する
実施場所	福岡市国際会議場
実施日 (期間)	平成27年11月9日～11月13日
参加人員	929名 (参加登録者865名、展示出展者51名、寄附者招待5名、基調講演者8名)
実施内容	<p>会議は11月9日～11月13日の5日間 (うち11月13日は現場見学会) で実施した。以下にその内容を示す。</p> <p><u>11月9日 (1日目)</u> 午前 開会式、基調講演2件、一般セッション、技術展示 午後 テクニカルセッション、技術展示</p> <p><u>11月10日 (2日目)</u> 午前 基調講演2件、一般セッション、技術展示 午後 一般セッション、Mercer Lecture (国際ジオシンセティックス学会との共催)、 技術展示</p> <p><u>11月11日 (3日目) (実務者セッション (ESD: Engineering Sessions Day) の日)</u> 午前 ESD開会式、ESD基調講演5件、技術展示 午後 ESD特別講演、ESD一般セッション、技術展示</p> <p><u>11月12日 (4日目)</u> 午前 基調講演2件、一般セッション、技術展示 午後 一般セッション、閉会式 終日 ESD企画の現場見学会 (有明道路 (佐賀県)、五ヶ山ダム (福岡県) を見学)</p> <p><u>11月13日 (5日目)</u> 現場見学 (島原コース・福岡市内コース)</p> <p>【特別・基調講演】 基調講演： 1) Prof. Kok Kwang Phoon (シンガポール: National University of Singapore・教授) 2) Prof. Dong-Soo Kim (韓国: Korea Advanced Institute of Science and Technology・教授) 3) Prof. Gang Zheng (中国: Tianjin University・教授) 4) Prof. Gautam N. Gandhi (インド: Indian Geotechnical Society・会長) 5) Prof. S. Mohsen Haeri (イラン: Sharif University of Technology・教授) 6) 兵動正幸氏 (日本: 山口大学・教授)</p> <p>ESD特別講演： 大石久和氏 (国土技術研究センター・国土政策研究所長)</p> <p>ESD基調講演： Prof. Jorge Gabriel Zornberg (米国: The University of Texas and Austin・教授) Mrs. Ilya Marotta (パナマ: Engineering Panama Canal Authority・副会長) Ms. Frances Badelow (オーストラリア: Coffey Geotechnics・Senior Principal) Dr. Albert T. Yeung (香港: University of Hong Kong・准教授) 水上純一氏 (日本: 国土交通省関東地方整備局・東京空港整備事務所・所長) 今石 尚氏 (日本: 大成建設土木本部土木技術部・部長)</p>

<p>事業の告知媒体 (告知方法)</p>	<p>パンフレット、新聞、プログラム冊子、ホームページ</p>
<p>実施効果</p>	<p>国際地盤工学会 (International Society for Soil Mechanics and Geotechnical Engineering, ISSMGE) では4年に一度、各地域 (アジア、ヨーロッパ、アメリカ大陸、アフリカ、オセアニア) において地域会議を開催するが、本国際会議はそのアジア地域会議であり、今回で第15回目を迎える。アジア地域会議の歴史は古く、第1回は1959年にインドのニューデリーで開催された。我が国については第2回が東京、また第8回が京都で開催され、今回の第15回は28年ぶりの我が国開催となる。海外からのアジア参加国はアジア地域以外も含め34か国である。本会議は地盤工学に関するアジア地域での国際研究集会としては最大規模の会議であり、対象とする分野は工学系では土木・建築、理学の地質系、および農学系の農業土木分野の特に土質材料を扱う「地盤工学」という分野である。近年では、社会基盤整備としての建設分野に加えて、廃棄物の有効利用や防災・減災のための技術開発や材料開発およびシステム構築に関する実務や研究が進められており、本会議では種々の地盤構造物の保守・補修技術までも対象とした。参加者については、現在地盤工学分野の国際マーケットが東南アジア、西アジア、および中央アジアに集中していることもあり、アジア地域の学会参加国のみならずヨーロッパやアメリカ大陸より多くの技術者・研究者の参加があった。</p> <p>本会議の目的は地盤工学を対象としたアジア地域では最大規模の研究集会であり、アジア地域の問題に関する問題発掘、知識共有、解決に向けての人的ネットワーク作りを目的としている。特に副題を「New Innovations and Sustainability」としており、上記の内容に関するアジア地域のみならず世界規模での情報交換に加えて、技術の継承やそのための若手人材の育成・確保を目的としており、地盤工学の国際的マーケットとなるアジア地域の人材育成を目的としている。この目的の下、これまでの会議とは異なる2つの特徴あるプログラムを実施した。それらは (1) 技術者が積極的に参加できる企画・運営、および (2) 我が国が主催するメリットを生かし、我が国の建設産業界の国際的影響力を高めるために、我が国に留学経験があり自国に帰国され技術者・研究者として活躍している留学生OB/OGを対象とした企画である。前者については、従来は学術的側面が強くなりがちな国際会議において、特に技術に特化した1日として「技術者セッション (ESD)」を企画し、国際的なピックアッププロジェクトの紹介と我が国の災害廃棄物に関するセッションを始めとする技術を主としたセッションを配した。また後者は特に我が国の建設業界の今後の方向性としてアジア地域を含む世界的な展開は不可欠であり、その際、我が国に留学経験を持つ留学生OB./OGとより深い連携を持つことは大変意義あることであったと考える。加えて、(1)における技術者セッションの日には、特別講演として大石久和氏 (国土技術研究センター・国土政策研究所長) の講演を一般公開することで、広く一般社会に建設分野における国土の利用、整備または保全に関する情報提供を行ったことの意義は大きい。</p> <p>最後に国土交通省をはじめとする、日本建設業連合会 (日建連)、建設コンサルタント協会 (建コン協) 全国地質調査業協会連合会 (全地連) や、学術的側面として、国際ジオシンセティック学会 (IGS)、土木学会、日本建築学会、および農業農村工学会の後援をいただいたことは、今後の我が国の国土整備や防災・減災について広く情報を共有できたと考える。</p>

実施状況



・会場入口



・受付の様子



・大石 久和氏による特別講演



・一般セッションの様子



・企業展示の様子



・同時通訳を利用した講演聴講



・太宰府道路管制センター現場見学の様子



・有明海沿岸道路現場見学の様子